

Argentina

アルヘンディーナ

No. 63



ブエルト・マデロ、ブエノスアイレス (2012年11月撮影、水上駐亜日本大使ご提供)

一般社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2013年12月

ブエノスアイレス、新しい息吹の中で
(水上 正史) 2

風水素の輸出でパタゴニアを21世紀のクエートに
—アルゼンチン、チュブット州科学技術省長官夫
妻の訪日 (横山 稔) 3

アルゼンチン観戦武官と2人の連合艦隊司令長官
(津島 勝二) 5

大城バネサさんとの再会
(寺本安久・藤田悟郎・松本良彦) 6

中間選挙の実施とフェルナンデス大統領の入院
—亜国政治経済短信 (荒尾 保一) 7

Resumen en castellano 9

協会の活動案内
～当協会主催「タンゴ音楽の集い」の次年度開催
予定 9

協会の活動報告

～9月17日 (火) 当協会事務所は新事務所に移転
..... 10

～9月30日 (月) ルイス・J・アレギ公使ご帰国
..... 10

～8月24日 (土) 日本で最初のパービーサッカー
大会、第1回パービーカップに長田小学校が参戦
..... 10

～11月1日 (金) フェスティバル ラテイノア
メリカーノ2013年、チャリティーバザーへの
協賛 10

～11月3日 (日) 第51回アルゼンチン共和国杯
(重賞G-IIレース) 11

～11月15日 (金) 第22回「タンゴ音楽の集い」
..... 11

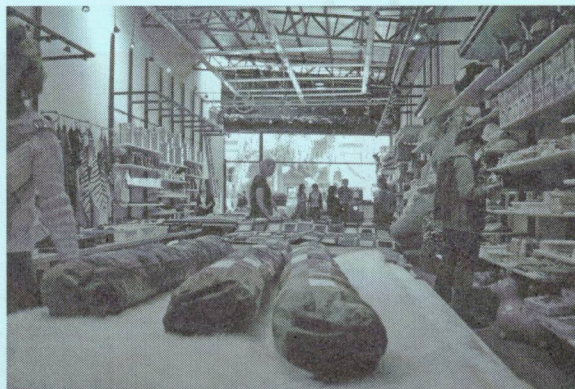
協会会員のご活動報告

ブエノスアイレス、新しい息吹の中で

水上 正史



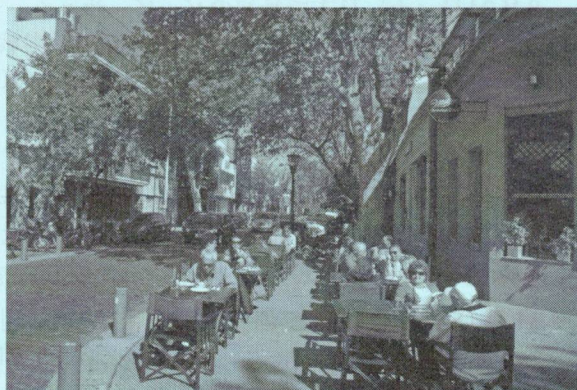
9月5日、東日本大震災へのご支援に対し
謝意レセプション（於；大使公邸、向かって左から
水上大使、三笠宮彬子女王殿下、岸田外務大臣）



若者に人気のパレルモ・ハリウットの店内の一つ

1991年4月に最初のアルゼンチン勤務を終え、2011年2月に再びこの街に戻ってきました。基本的にこの街は変わっていないけれど、それでも少しずつ新たな顔を私に見せてくれています。

かつては余り治安のよくなかった地域が、今ではこの街のポップな場所として新しい姿を見せています。プエルトマデーロとパレルモ・ハリウッドです。プエルトマデーロは、ルナ・パークの裏手一体でおしゃれなレストランが並んでいます。その奥は閑静な地域で、その中には今年9月に、2020年オリンピック・パラリンピックを東京でと決定した会場、ヒルトンホテルがあります。この地域は90年代中頃に開発が始まりました。それに遅れること10年で再開発されたのが、パレルモ・ハリウッドです。元々は倉庫街であったものを若者たちがアトリエ、ブティック、レストランを中心に発展させました。まだまだ賃料は安いことから、発展の余地があり新しい息吹を感じさせる場所です。こうした場所を、オールドブエノスファンは知りません。



新しく賑わいを見せるパレルモ・ハリウッド

私が前回着任したのは、87年の年末でした。長い軍政が終わり民主主義が復活し選挙で選ばれたアルフォンシン大統領の任期最後の時。まだまだ人々の表情にはある種の陰を感じることがありました。その数年前に終えた軍政やマルビーナス戦争を引きずった話題に触れるにも、それなりに気をつかったものでした。今この街の表情はとても明るくなっています。定着した民主主義の中で生活をしている、ひそひそ声で話をしなくていい雰囲気が今はあります。

経済発展でまず目につくのは、車が新しくなったことです。機関車のような煙を撒き散らして走る車はもう見かけません。バスの運転も随分穏やかになりました。ブエノスアイレス郊外の高速道を含めた道路網も整備され始めています。日本人関係者ゆかりの地、Ituzaingoへの道も快適となり、ブエノスアイレス近郊のゴルフ場も心なしか増えています。それ以上に増えているのが郊外のカントリークラブ。一般犯罪が増えているせいかもしれませんが、週末をカントリーで過ごす人が増えているようです。そして、変わらないのは、アサードの美味しさ。

日系人社会も落ち着き着実に発展しています。特に目立つのは若い世代が色々な活動の中心で活躍し始めていることです。世代交代も上手に進んでいます。そして私も日系人社会とのつきあいでスペイン語を使うことが多くなりました。先日、パンアメリカン日系人大会が当地で開催されました。多くの人が各国から集まりました。若い世代の人たちが中心となって運営し大成功でした。

9月のIOC総会の時にも、日系人社会が様々な活動をして盛り上げてくれました。8月中旬には、San Martin広場から9 de JulioまでのSanta Fe通りを閉鎖

してニッポン祭りが行われました。多くの日本文化が披露されましたが、中でも多かった出し物は、和太鼓です。とにかく威勢がよくていい。こうした機会に振り返ってみると、日本人、日系人がこの国、この街で



受け入れられていることがよく分かります。2020年が東京で決まった際にも、私が大使であることを離れて日本人だというだけで多くの人が温かい声をかけてくれました。また、日本庭園も週末を中心に大変な入園者で賑わっています。日系人たちが築いてくれたこともあり、未だに日本ブランドが健在な土地です。

残念なのは、在留邦人や進出企業の数が減っていることです。かつてと比べて貿易量も増えているし、その間の事情はよくわかりませんが、今ひとつブームに乗り切れていません。その煽りを受けて日本人学校の生徒数が激減しています。全校生徒で20名を切るレベルまで減ってしまいました。

そんなブエノスアイレス、アルゼンチンです。

(みずかみ まさし：在アルゼンチン特命全権大使)

風力水素の輸出でパタゴニアを21世紀のクエートに —アルゼンチン、チュブット州科学技術省長官夫妻の訪日

横山 稔

1. はじめに

「水素：未来の大きな期待がチュブット州と日本との協力によって開かれる」

これは日本水素エネルギー協会の招待により2013年7月15 - 21日訪日された、アルゼンチン、チュブット州科学技術産業革新省ルーベンサラテ長官が帰国後地元新聞に発表した訪日報告記事のタイトルである。地下水汚染の研究で化学博士号をとったアドリアナパハレス夫人も同行され、水の専門家なので各訪問先で話が弾んだ。

サラテ長官は、チュブット州の風力エネルギーで発電し水の電気分解で水素を生産、自国消費および世界中に輸出するというプロジェクトが日本における技術開発により可能になったと判断してその技術を確認するために訪日した。

1998年アルゼンチン、ブエノスアイレスで世界水素会議が開催された。これを主導したのがアルゼンチン水素協会現会長であるファン・カルロス・ボルシッチ博士である。彼はその後2006年にアルゼンチン水素法（法律26190号）を国会で成立させた。

第一条 水素を生産しエネルギーとして使用することが国家利益にかなうことの宣言

第二条 技術開発を進め、第一条を促進することが国家エネルギー構想に適合する

第三条 水素生産・教育普及・消費のための具体的方策を細かく規定

これで明確に水素を国家戦略として位置づけており、今回の訪日はこの法律に基づく具体的行動でもある。

2. 訪問スケジュール

7月15日 休日、カタール航空でドーハ経由、成田着
7月16日 火曜日

1. 水素エネルギー協会、亀山秀雄会長への挨拶、東京農工大訪問

エネルギーキャリアーとしてのアンモニア製造、新オゾン水製造技術とそれを用いた口蹄疫、サルモネラ菌予防対策技術、燃料電池発電などにつき討議、さらに農工大学科学博物館、ベンチャーアルマイト触媒研究所、アンモニア合成実験、オゾン水製造実験など世界最先端技術の実験室を見学した。

この新製法オゾン水でアルゼンチンの牛の口蹄病が撲滅されれば、草だけを食べて育つアルゼンチンのジューシーで美味でしかも安い牛肉の日本への輸入が可能となるだろう。

2. 太田健一郎先生の自宅訪問、設置してあるエネファームをつぶさに見学し電力コスト、消費量、節約量の具体的数字を示して歓談、奥様同士の話が弾んだ。

7月17日 水曜日

1. 東京ガス千住水素ステーションを訪問し水素自動車に体験乗車、エネファーム、水素スタンドなどの懇切丁寧な説明を受け、実物をつぶさに見学した。
2. 千代田化工建設（株）を訪問してSPERA HYDROGEN（有機ハイドライド、MCH）の実証プラントを見学、水素を大量に安全に貯蔵、輸送できる新技術を目の当たりにして感動していた。この訪問が彼らの訪日の最大の目的である。
3. 在日アルゼンチン大使、ラウルデジャン氏と会談、夕食を共にした。日本との調査研究発展協力の増進などの話が弾んだ。

7月18日 木曜日

早朝の新幹線で徳山市に行き、株式会社トクヤマを訪問し大型食塩水電解槽と水素液化プラントなどを見学した。会談では旭化成（株）より水電解装置開発状況の説明があった。

この技術を知ることも今回の彼の訪日目的の一つである。

7月19日 金曜日

岡山県玉野市、CEC Water Technologies Ltd.社を訪問し、すでに見積りを受けていた海水利用次亜塩素酸製造装置について詳細討議を行った。

またクロリンエンジニアズ（株）より風力発電と結びつく水電解の論文紹介があった。

7月20日 土曜日

日本—アルゼンチン協会主催の歓迎会に出席し歓談した。この協会にはアルゼンチンに興味のある270の日本の会社・個人が所属しており、ルーベンサラテ氏はチュブット州への投資、特に今回の訪問目的であるエネルギー分野への投資について説明した。出席者の中にNECアルゼンチン会社社長の経験者が2人おり、アルゼンチンでの企業経営についての話が弾んだ。



当協会との懇談

7月21日 日曜日

アルゼンチン斑岩舗装地見学：東京駅前丸の内仲通り、銀座みゆき通り、あずま通り、東京駅八重洲口、赤坂サカスなどがチュブット州で生産される景観舗装用石材アルゼンチン斑岩（はんがん）で舗装されており、これらの美しい舗装を見て彼らの感激は頂点に達し、写真を撮りまくった。

夜10時発カタル航空で成田から帰国。



アルゼンチン斑岩舗装（銀座みゆき通り）の上で

3. 未来のエネルギーから現実のエネルギーへ

ルーベンサラテ長官の訪日中の発言および帰国後地元新聞で発表したこと：

予想される石油ガス資源の枯渇と地球温暖化への対策として、新エネルギーの研究・開発への努力は今後ますます重要になってくる。アルゼンチンでのシェールオイル・ガス開発は資源は大量にあるが、深度が深すぎてコストが合わず環境（地下水）汚染問題などの難しい問題もある。アルゼンチンではアンデス山脈水河から地下を流れる伏流水で農業生産・人間の生活がなされておりこの汚染は許されない。

風力部門を強化し燃料としての水素を生産するための日本との協力合体、新技術の開発、生産手段の発展発達が必要でチュブット州はこの正道をゆく。

「パタゴニアは世界中に十分な燃料を供給できる」とドイツ、ENERCON社のCarl Jochen氏が言っている。プエノスアイレス大学のErik Spinadel教授は「水素を液体タンカーで輸出すればわれわれは21世紀のKuwaitになれる」といっている。

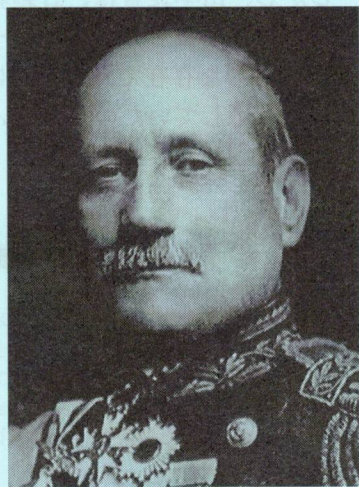
この分野で最先端を行く日本との協力が最も重要である。

（よこやま みのる：（株）グレートスピリッツ社長
当協会監事）

アルゼンチン観戦武官と2人の連合艦隊司令長官

津島 勝二

アルゼンチン共和国海軍のマヌエル・ドメック海軍大佐(後に海軍大将、海軍大臣)が、イタリアのジェノバでアルゼンチンが発注した装甲巡洋艦「モレノ」、「リバダビア」の建造委員長の任務に就いていたこと、そして、その両艦が、ロシアと戦争に突入する日本に譲渡され、日本の装甲巡洋艦「日進」、「春日」となったことは、日本アルゼンチン協会の皆様には広く知られていることなので、その詳細については省略する。



ドメック大佐(海軍大将に昇役後)

また、これも会員の皆様には、よく知られていることではあるが、ドメック大佐は観戦武官として「日進(モレノ)」に乗艦して、日露戦争の海戦をつぶさに観戦した。

ちなみに、日露戦争においては、13ヶ国42名の各国観戦武官が日本に来たが、そのうちの40名は日本海軍の勝利に不安を抱き、恐怖を感じて日本の軍艦には乗艦せずに、陸上で日本海軍の発表に基づき観戦報告を作成している。

飛来するロシア側の砲弾の中、命懸けで日本海軍の軍艦の艦上で観戦したのは、アルゼンチン海軍のドメック大佐と英国海軍のペケナム大佐(戦艦「朝日」に乗艦、後に海軍大将)の2人だけであったと言われている。

(危険な事実としては、後の第一次世界大戦で日本海軍の観戦武官として英国の巡洋戦艦「クイーン・メリー」に乗艦した下村中佐が、ユトランド沖海戦で戦死している。)

そのような苛酷な状況の下で日露戦争の海戦を観戦したドメック大佐は、全5巻で約1400ページに及ぶ観戦報告書をアルゼンチン海軍に提出した。

その報告書はドメック大佐の才能が遺憾なく発揮され、単に戦闘の記録のみならず、日本の近代化の足跡、海軍政策、戦略、戦術、科学技術、兵員の教育訓練、そして、日本国民の愛国心に富んだ国民性にまで及んでいる。

それら全てを紹介したいところではあるが、紙面の制限もあり、特筆すべきこととして、ドメック大佐が見た連合艦隊司令長官、元帥東郷平八郎海軍大将の指揮官像について紹介することと致したい。

ドメック大佐は、東郷提督の指揮官としての資質を高く評価している。

すなわち、ドメック大佐は、東郷提督が飾り気のない謙虚な性格、物事に動じない態度、的確な判断力、そして、部下に対して曇りのない信頼の念を持つなどの優れた資質を有していたとしている。



東郷連合艦隊司令長官

それらの資質は遺憾なく発揮され、東郷提督は他国海軍に例を見ない若い指揮官を活用すると共に、部下を適材適所に配置した他、入念に作戦計画を各級指揮官に周知徹底させて、錯綜する戦闘場面においては、指揮下の各艦隊司令官、各戦隊指揮官に臨機応変に行動する裁量権を与えたが、それらが日本海軍の勝利の一因になったと記している。

(これは、現代の企業経営に適用出来ると思う。)

それとは反対に、バルチック艦隊においては、ロジェストウェンスキー提督が1人の頭で考え、1人の判断で命令を下しており、適切な進言者もいなかったために、艦隊は独裁者の下で硬直していたとしている。

このようなことから、ドメック大佐は東郷提督の姿に理想の指揮官像を見出したのではないかと考える。

もう1人の連合艦隊司令長官は、太平洋戦争開戦時、その職にあった元帥山本五十六海軍大将である。

山本提督は、米内光政海軍大臣、井上成美海軍省軍務局長(終戦直前に海軍大将、最後の海軍大将と言われる)と共に、海軍のリベラル派として日独伊三国同盟と対米開戦に反対していたが、意に反して真珠湾攻撃を指揮し、その後、前線部隊視察に向かう途次にブーゲンビル島上空で戦死した悲劇の提督である。

山本提督は、日露戦争時に高野少尉候補生という名でドメック大佐と同じく、装甲巡洋艦「日進」に乗艦して戦闘に参加した。

(山本提督は、大正4年に越後長岡藩主の子孫である牧野忠篤子爵の口添えで旧長岡藩家老の家柄である山本家を相続して高野姓から山本姓になった。)

山本提督は、その高野少尉候補生時代、日本海海戦において、「日進」艦上で左手の人差指と中指を欠損、右下腿部に重傷を負った。

その山本提督(当時高野少尉候補生)とドメック大佐が、「日進」艦上で言葉を交わしたという記録は見出せない。

狭い艦内とは言っても、外国の大佐と少尉候補生とは居住状況、生活状況が異なっており、お互いに会話する機会があった可能性については不明である。



山本連合艦隊司令長官
(山本五十六記念館所蔵)

そして、ドメック提督が、太平洋戦争開戦時の日本海軍連合艦隊司令長官が、自分と同じく、「日進」に乗艦していた少尉候補生であったと認識していたかどうかは、定かではない。

(ドメック提督は、1951年1月11日、ブエノス・アイレスで逝去。)

しかし、山本提督は、日露戦争当時の高野少尉候補生時代の思い出として、アルゼンチンからの観戦武官という特別な存在で「日進」に同乗していたドメック大佐を記憶していたのではないと思われる。

(つしま しょうじ：当協会会員
「アルゼンチン観戦武官の記録」の翻訳者)

[注] 訳書「アルゼンチン観戦武官の記録」とは、ドメック大佐がアルゼンチン本国に提出した公式報告書の翻訳版。津島氏が、かつて海上自衛隊に御在職時、アルゼンチン共和国海軍の快諾を得て、当時のサンチス・ムニョス駐日大使を通じて海上自衛隊に贈呈された同観戦記録の写しを、津島氏が翻訳されたものであります。

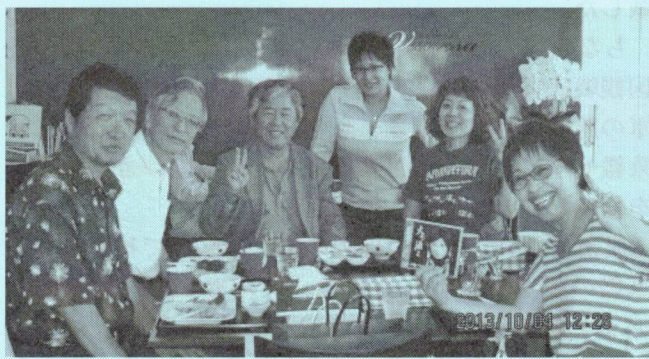
大城バネサさんとの再会

寺本安久・藤田悟郎・松本良彦

2001年10月アルゼンチンでNHKのど自慢が開催された。のど自慢が海外で開かれたのは、1998年のブラジル・サンパウロが最初で、その後、ペルー、ハワイに続き、4回目がアルゼンチン・ブエノスアイレスである。アルゼンチン日系移民はおよそ3万人。南米各国の日系社会と比べるとその規模は小さく、その約7割が沖縄出身者だ。日系人に共通するものは、日本の歌であり、特に演歌には、日本人以上に心ひかれている。その歌心をアルゼンチン日系社会は大事に育ててきた。日系人入植地ごとに、毎年いろいろな所で「歌祭り」が開かれる。筆者もその審査員を10年ほど続けさせて頂いた。

審査は大変難しいが、歌っている楽しさ・喜びが伝わってくる。「アルゼンチン日系人のレベルの高さは、他の南米の国を圧倒している」といわせたのは、この歌祭りのおかげであろう。NHKのど自慢in Argentinaで、日系人の頂点に立ったのが門倉有希の歌『女の漁歌』を歌いチャンピオンの座を射止めた「大城バネサ」でした。

その彼女との嬉しい再会は、ブエノス・アイレス以来10年ぶりのことになる。新幹線 岐阜羽島駅近くの彼女がオーナーである「カフェテリア・バネサ」で会うことが出来た。流暢な日本語で、気楽に気さくにしゃべくりまくる彼女の会話力・表現力にびっくりし、す



再会の喜び(中央に立ってバネサさん、左に追っかけ3兄弟、右端は青山みさん(国際調和クラブ理事長))

ばらしい感情表現能力にも舌をまかれた。人間として一回り大きく成長し、自信がみなぎっているように感じられた。

この度、デビュー10周年を記念して、「三陸海岸」のCDが発売された。サンマ漁が題材になっている。秋刀魚は、北半球の魚。南半球のアルゼンチンには、秋刀魚はいない。バネサは、子供の頃、サンマのことは全く知らなかつたろう。そのサンマがテーマだという。驚きである。「サンマが群れで泳ぐところが、日系人の助け合って生きている姿にあい通じるものを感じた。」というのだから彼女の心は広く・深くかつ純真である。チャンピオン曲の「女の漁歌」も

「三陸海岸」も彼女の原点である海がテーマだ。アルゼンチンと日本は地球の反対側に位置する。しかし海で繋がってるアルゼンチンと日本。この曲を通じて、2国間交流の架け橋になってほしいとも思う。

これまで、バネサは、全国津々浦々、北は北海道から沖縄の離島まで、各地を転々として歌を歌ってきた。ボランティアでも、250箇所以上回ったそうだ。おじいちゃん・おばあちゃんが、演歌を聞いた後、病気が治ったとか、調子が良くなったとか言ってくれる。おじいちゃん・おばあちゃん子のバネサは、その言葉を聞くと嬉しくて涙がこみ上げるそうだ。

「一度、声が潰れて歌えなくなった時、両親と一緒に雪降る秋田でアルゼンチンに帰ることを本気で考えた。そのとき、自分は、日本・日本人が好きで、イイナと思っている。その日本人にバネサの歌を聞かせたい。アルゼンチンの日系人や、日本でも青山るみさん（日本舞踊師範、一般財団法人 国際クラブ理事長）他沢山の仲間が応援してくれている。それに答えたい。」そんな苦労話の中には、やさしさと強さが感じられた。

デビュー以来、たくさん曲を歌ったけれど、演歌以外に好きなのは、

「愛の天秤」、同じCDのB面にカップリングされている「南風」だという。「愛の天秤」は、スペイン語タイトルでは、「Por Una Cabeza」。作曲はタンゴで世界的に有名なカルロス・ガルデル。自分のルーツであるアルゼンチンの曲。「南風」は、沖縄の曲。自分の2つのルーツが入っているからこそ大好きだそうだ。

以外や以外？ご自身のルーツ物ソングが好きでしたか！

アルゼンチンを深く思う気持ちと日本を大事にする気持ちを同時に持ち合わせている。これが彼女の原点なのでしょうね。

最後に、「カフェテリア バネサ」を簡単にご紹介させていただきます。新幹線岐阜羽島駅南口から徒歩2分のところにあり、ご本人が経営しているととても明るく気楽なお店。カラオケもあり、近所の皆さんが集まる人気店。また、コーヒーが、素晴らしい。ブラジル百年祭の時に「美味しいコーヒー」を飲みたいとのバネサの一言がきっかけで知りあったブラジル・クリチバのカサイさん。本場物で最高級のKASSAIブランドを特別に提供し続ける。バネサは、娘のように可愛いそうだ。このコーヒーが飲めるのは勿論日本では、ここだけです。岐阜近郊にお出かけの折は、お立ち寄りいただき、ブラジル・コーヒーとバネサの歌とご自慢のカラオケで満喫してください。

バネサさん、来年は、紅白歌合戦に出場できるように頑張ってくださいね。期待してますよ。

(てらもと やすひさ・ふじた ごろう・
まつもと よしひこ：

バネサ追っかけ3兄弟、当協会常務理事・執行理事・会員)



カフェテリア・バネサ（新幹線岐阜羽島駅南口前）

中間選挙の実施とフェルナンデス大統領の入院

— 亜国政治経済短信 —

荒尾 保一

1. オリンピックの東京開催決定

9月7日、プエノスアイレスにおいて、第125回IOC総会が開催され、最終候補地（マドリード、イスタンブール及び東京）の中から、東京が2020年のオリンピック及びパラリンピックの開催地に選出された。同総会には、安倍総理、森元総理、岸田外務大臣、猪瀬東京都知事などの要人、スポーツ界、経済界の要人等が多数同市を訪れた。

また、三笠宮彬子女王殿下、高円宮妃殿下が東日本

大震災の復興支援に対する感謝の表明などの目的のために訪垂された。

2. 中間選挙

アルゼンチンでは、10月27日、議会及び地方の首長の中間選挙が実施された。今回の選挙は、2011年に、フェルナンデス大統領が再選されてから2年が経過し、2015年の任期満了までの中間に行われるもので、下院の半数、上院の3分の1、及び主要地方の州知事及び市長が対象となっている。

フェルナンデス大統領は、現在2期目を迎えており、
 亜国憲法では、大統領は3選を禁じられているので、
 その後の大統領選の行方が注目されている。一部には、
 同大統領は、憲法を改正して3選を目指すとの見方
 があるが、憲法改正のためには、上下両院の3分の2の
 議席を確保することが必要であるので、今回の中間選
 挙の結果が注目されていた。

今回の選挙によって選出された議席を加えた今後の
 党派別の議席数は、次の表の通りである（新議席数に
 ついては、報道各紙によって相違がある。選挙後に議
 席を変更する当選者等があるので、確定が困難だとい
 う事情があるとのことである。この表は、11月2日付
 のNacion紙に拠った。）

下院 議席数 257

与党		野党	
党名	議席数	党名	議席数
FpV y Alliados (勝利のための戦線及び同盟党)	132	UCR PS FAP (急進党他)	61
		PRO (マクリ及び同盟党)	21
		Frente Renovador (S.Massa) (刷新党 マッサ)	16
		MPN (ネウケン州ペロン党)	3
		F.Izquierda y Trabajadores (左翼党)	6
		Otros (その他)	19

改選数 127議席 うち 与党 47議席 野党 80議席

上院 議席数 72

与党		野党	
党名	議席数	党名	議席数
FpV y Alliados (勝利のための戦線及び同盟党)	38	UCR, PS, FAP y Alliados (急進党他)	19
		Frente Renovador (S.Massa) (刷新党 マッサ)	7
		PRO (マクリ及び同盟党)	3
		Otros (その他)	5

改選数 24議席 うち 与党 14議席 野党 10議席

以上のとおり、上下両院において与党「勝利のため
 の戦線」は過半数の議席を維持したが、改選議席にお
 いては、大きく後退した。

中でも、穏健派のセルヒオ マサ元首相（ティグレ
 市長）が率いる刷新党（Frente Renovador）が大きく
 躍進した。特に、大票田とされるブエノスアイレス州
 で多数の票を集め、次期大統領選に関連して、注目を
 集めている。

3. フェルナンデス大統領の入院

フェルナンデス大統領は、8月12日に転倒し、頭部
 に衝撃を受けたが、その際の検査では異常は発見され
 ず、後遺症もなかった。しかし、10月5日、ファバロ
 ロ財団病院で診察を受けた結果、慢性硬膜下血腫と診
 断され、1か月間の静養を指示された。左腕のしびれ
 を訴え、急遽8日に血腫の摘出手術を受けた。手術は
 問題なく行われ、同病院にて入院していたが、18日退
 院した。

同大統領の入院に伴い、憲法の規定に基づいて、
 10月7日、アマド プドウ副大統領が宣誓を行い、権
 限移譲文書に署名して、大統領代行に就任している。

4. 経済情勢

INDECの発表によると、2013年第2四半期の実質
 GDPは、前年同期比8.3%の増で、伸び幅が上昇した。

民間消費及び政府消費が引き続き高い伸び率を示すと
 ともに、固定投資及び輸入が大幅に増加した。

8月のスーパーマーケットの売上高は前年同月比
 27.3%、自動車の販売台数は同29.9%の大幅増となっ
 ている。

8月の消費者物価指数は、INDECの発表では、前年
 同月比10.5%の上昇となった。ただし、民間コンサル
 タント会社8社の推計では、25.4%の上昇となっている。

2013年第2四半期の国際収支は、貿易収支が
 4,485百万ドルの黒字、所得収支が2,628百万ドルの赤
 字で、経常収支は、650百万ドルの黒字であった。資
 本収支は、3,497百万ドルの黒字であった。

なお、9月末の外貨準備高は、347億ドルである。

5. フラギオ元駐日大使の逝去

元アルゼンチン海軍少将カルロス ハイメ フラギオ
 元駐日大使が、11月6日逝去されたとの情報が伝えら
 れた。享年87歳。同氏は、1976年から79年12月まで
 駐日大使の職にあり、また、長く亜日協会の会長も務
 められ、日本語も堪能で、歴代駐日大使の中でも、最
 も親日的な大使の一人であった。謹んでご冥福を祈り、
 哀悼の意を表する。

（あらお やすいち：当協会 常務理事）



Resumen en castellano

Por Irene Gashu

Nuevos aires en Buenos Aires (p. 2)

Por Masashi Mizukami, Embajador de Japón en Argentina

Mi primera misión en Argentina terminó en 1991. Lugares como Puerto Madero y Palermo Hollywood le han dado un soplo de aire fresco a Buenos Aires. El asado sigue siendo delicioso. El Festival del Japón y la Convención Panamericana Nikkei, organizados por jóvenes nikkei de Argentina, tuvieron mucho éxito. Lo triste es que la cantidad de japoneses residentes y de empresas japonesas en Argentina está disminuyendo.

Exportando hidrógeno la Patagonia podrá ser el Kuwait del siglo XXI (p. 3)

Por Minoru Yokoyama

Rubén Zárate, Secretario de Ciencia, Tecnología e Innovación Productiva del Chubut, y su esposa Adriana Pajares, doctora en ciencias químicas, visitaron Japón del 15 al 21 de julio. La cooperación entre Chubut y Japón representa una gran oportunidad para desarrollar la tecnología que permita separar el hidrógeno presente en el agua mediante electrólisis, a partir de la electricidad generada por el viento.

Domecq García, Togo y Yamamoto (p. 5)

Por Shouji Tsushima

Durante la Guerra Ruso-Japonesa, Manuel Domecq García estuvo a bordo del crucero acorazado "Nisshin" como observador. A su regreso a Argentina, escribió un informe de 1.400 páginas en el que no se limitó a temas bélicos sino que describió con admiración al Almirante Heihachiro Togo y al pueblo japonés. El Almirante

Isoroku Yamamoto también estuvo a bordo del "Nisshin" como cadete. En una batalla, perdió dos dedos de su mano izquierda.

Reencuentro con Vanesa Oshiro (p. 6)

Por Yasuhisa Teramoto, Goro Fujita y Yoshihiko Matsumoto

Conocí a Vanesa Oshiro en Buenos Aires cuando ganó el Concurso de canto de NHK 2001. Nos volvimos a encontrar 10 años después en su "Cafetería Vanesa" que queda cerca de la estación de Hashima, Prefectura de Gifu. Para celebrar su décimo aniversario como cantante, Vanesa lanzó un CD: "Costa de Sanriku". Además de su trabajo como dueña de la cafetería, Vanesa ha cantado como voluntaria en más de 250 lugares.

Elecciones legislativas e internación de la presidenta (p. 7)

Por Yasuichi Arao

1) En Buenos Aires, Tokio fue elegida como sede de los Juegos Olímpicos de 2020. 2) En las elecciones legislativas de octubre, el partido gobernante pudo mantener la mayoría pero perdió numerosas bancas. 3) Por estar la presidenta Fernández internada en un hospital, el vicepresidente Amado Boudou asumió el poder ejecutivo. 4) Según el INDEC, el PIB en el segundo trimestre de 2013 mostró una variación positiva de 8,3% con relación al mismo período del año anterior. 5) Falleció el ex-embajador de Argentina en Japón Carlos Jaime Fraguío.

協会の活動案内

～ 当協会主催「タンゴ音楽の集い」 のこれからの開催予定

毎回好評を頂いている当協会主催「タンゴ音楽の集い」の次年度の開催予定は、次の通りです。テーマ、詳細が決まり次第ご案内します。

第23回 3月14日 (金)
第24回 6月20日 (金)
第25回 11月14日 (金)

場所はこれまで同様、当協会旧事務所隣の第2光和ビル「シンバシ・フォーラム」地下2階で18:30からです。

協会の活動報告

～ 9月17日 (火)

新橋の当協会事務所が三田の 新事務所に移転

新事務所；一般社団法人 日本アルゼンチン協会
〒108-0073 東京都港区三田2-7-16 協和三田ビル3階
電話；03-6809-3681 ファックス；03-6809-3682
E-mail; nippon@argentina.jp
URL; www.argentina.jp
アクセス；
都営大江戸線 赤羽橋駅 赤羽橋出口 徒歩5分
都営浅草線 三田駅 A3出口 徒歩7分
都営三田線 三田駅 A8出口 徒歩9分
JR 田町駅 西口(三田口) 徒歩10分

～ 9月30日 (月)

在日アルゼンチン大使館 ルイス・J・アレギ公使ご帰国

2011年6月来日されたルイス・J・アレギ公使は、9月20日に公務を終え、月末本国に帰国された。

1989～1993年に在日大使館次席として日本にご滞在、現夫人とは日本で挙式、ご長男(現在21歳)は日本生まれで、日本を愛された一人でした。

当協会の活動に大変ご理解を頂き、日比谷公園でのアルゼンチン祭、巣鴨三菱養和会での日垂親善サッカー大会、茨城県境町・長田小学校共催アルゼンチン交流80周年記念事業等に於いて、ご尽力、ご支援を頂きました。

当協会加藤・寺本両常務理事が、9月4日同公使を夕食にお招きして、ご滞在中の種々印象に残る場面を写した写真集を贈呈、楽しい時間を過ごした次第。

～ 8月24日 (土)

日本初のバビーサッカー大会、 第1回バビーカップに長田小学校 が参戦

8月24日、埼玉スタジアム2002の正面に位置する第4グラウンドにて、日本で最初のバビーカップが開催された。バビーサッカーはスペイン語読みで、「Baby」のこと。

もともとアルゼンチン国発祥のフットサルのサッ

カーで、現在、アルゼンチン人の小学校を中心に大変人気の高いミニ・サッカーです。

この記念すべき大会に、茨城県境町の長田小学校低学年部が、「境町サッカー少年団」のネーミングで参戦された。初めての対外試合だった由ですが、いかなく実力を発揮。

3点を奪取した最終試合は、「俺がシュートを決めたいぜ！」と満面喜びの声を上げていた。

チーム一丸となった試合ぶりには、選手全員の情熱を感じ、感動した次第。

今大会は、低学年の部(U-10)23チームが参戦、高学年の部(U-12)は15チームが参戦、選手総数約500名、ご家族、観戦者を入れると1,000名近い集まりとなり、大いに盛り上がりを見せた1日となった。

サッカーグラウンドは、6面のコートと同時に使用可能なスペースがあり、また「リバープレート・ジャパン」の側面的協力により、効率的な試合進行ができたことが、大成功を収めた要因の一つと言えよう。

来年は、アルゼンチン色を更に前面に出し、大会を盛り上げる予定にしている。



長田小チーム

～ 11月1日(金)フェスティバル ラティノアメリカーノ2013 (チャリティーバザー) への協賛

例年恒例の(社)日本・ラテンアメリカ婦人協会主催のチャリティー・バザーが、本年も同じ会場(東京プリンスホテル)で11:00～15:30に開催された。

本年も同様に中南米・カリブ諸国の物産・民芸品の販売、ラテンアメリカの音楽、民族舞踊、歌の披露と大変な盛況ぶりであった。

今年も、当協会として、アルゼンチン大使館宛チケット20枚分相当の協力を行った。

～ 11月3日 (日) 第51回アルゼンチン共和国杯 (重賞G-II、東京競馬場)

好天に恵まれた東京競馬場でのアルゼンチン共和国杯レセプションは、例年通り、アルゼンチン共和国デジャン大使他中南米関係国大使(ウルグアイ、パラグアイ、グアテマラなど)に加えてクロアチア大使が臨席。

参加者は総勢70名を超え、緊張感の中にも和気あいあいとした雰囲気の中で執り行われた。

共和国杯優勝馬は「アスカクリチャン号」(牡6歳、戸崎圭太騎手騎乗)で、単勝7番人気の馬であった。

同日昼、第5回ジョッキーマスターズ・全国ポニー競馬選手権が行われ、関東地区代表として参加の斎藤新君(12歳 中学1年生)が見事優勝。レース後、ベイビー・ジョッキーの皆さんは、VIPルームに招かれて、デジャン大使が一人一人にプレゼントを自ら手渡された。



ベイビージョッキーとデジャン大使

最終レース終了後、アルゼンチン・タンゴを披露して、競馬場を後にする観戦者にも心地よい思い出をプレゼントした。

～ 11月15日 (金) 第22回「タンゴ音楽の集い」

今年のテーマは「タンゴーその黄金時代の魅力を音と映像で再考する」、今回はその第3回目であり、サブタイトルは：

<第二黄金時代を更に発展させた人>

アニバル・トロイロ

<第二黄金時代の立役者たち>

フランシーニ=ボンテイエル、マリアノ・モレス、エドムンド・リベロ

<第二黄金時代から今日まで続く現代タンゴの金字塔>
レオポルド・フェデリコ

<第一黄金時代の息吹を継承する人々>

オルケスタ・マトス・ロドリゲス

<黄金時代の狭間でタンゴを繋いだ人の流れ>

ファン・ダリエソ、ホルヘ・バルデス、エルネスト・フランコ、等々

<黄金時代を普遍化したアーティスト>

オスバルド・プグリエーセ

馴染みのある演奏家、曲も多く、またプグリエーセの演奏は1989年名古屋での日本最終公演の映像であり、当協会理事飯塚久夫氏の名解説に乗っての大変内容の濃いプログラムであった。

約60名の参加者はタンゴ黄金時代の魅力を堪能された宵であったのではと感じた次第。

協会会員のご活動報告

～ 11月11日 (月)～ 11月23日 (土) 版画家星野美智子氏が新作展

星野美智子新作展「一ボルヘスの詩によせて：Rose Memorised—Buenos Aires—」が、銀座6丁目のギャラリー志門で開催された。

星野氏は1976年より一貫してボルヘス文学と共有する暗喩をテーマに制作を続けている版画家。今回はボルヘスが愛し、詠う「ブエノスアイレス」を取り上げて、ボルヘスの詩に象徴化されたこの街角の黄昏と、1990年以来5～6回ブエノスアイレスを訪問し滞在したときの心に残るものを表現された新作展であった。

～ 11月17日 (日) アルゼンチンタンゴ歌手 グロリア・米山さんがライブ

アルゼンチンのエンリケ・クッテイーニ楽団の来日20回記念コンサートが銀座のライブハウス(ケネディーハウス銀座)であり、グロリア・米山さんはスペシャルゲストで、同楽団と共演、アルゼンチン・タンゴを披露した。

小ぶりの会場だけに、立ち見の客が多数発生したほどに盛況であった。

～アルゼンチンタンゴ歌手 香坂 優さん、精力的に音楽活動

昨春「恋は悲しみのタンゴ」でメジャーデビューを果たされ、益々多忙のタンゴ歌手香坂 優さんは、年間を通して、種々のコンサート、タンゴショー、ライブ、ラジオ出演等精力的に活動されています。

イベント・スケジュール等詳細は、下記にお問い合わせください。

(株) オフィス ユウ Tel & Fax.: 03-6410-3307



協会ホームページの活用 及び E-メール通信の件

- 1. ホームページ (URL:<http://www.argentina.jp>)**
何らパスワードの入力は不要で、誰でも自由にホームページ内情報にアクセス出来ますので、ご活用ください。
- 2. E-mailアドレス**
nippon@argentina.jpが、協会のE-mailアドレスです。
アルゼンチンに関わる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝える為、今年からE-mailアドレスを連絡頂いている会員の方にはメール通信を始めております。
このメール通信をまだ受信されていない方で、受信をご希望の方は、住所、氏名及びメール・アドレスを当協会メールアドレス宛 (nippon@argentina.jp) 発信、ご連絡下さい。次のメール通信から送信致します。
ご連絡頂きましたメール・アドレスは、当協会の情報伝達関係以外の用途には使用致しません。
ご質問その他お問い合わせある場合は、協会事務所宛お電話ください。

電話：03-6809-3681 担当；阿部

編集長よりの御礼

フロント・ページの写真は、ブエノスアイレス市にご在住の水上駐亜日本大使からご提供頂きましたフォトです。

執筆、原稿につきましては、水上 正史様 (駐亜日本特命全権大使)、横山 稔様 ((株) グレートスピリッツ 社長 当協会監事)、津島 勝二様 (当協会会員) にご協力頂きました。

スペイン語のサマリー (Resumen en castellano) は、イレーネ賀集さん (当協会理事) に作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

～安田衣里さん、アルゼンチン訪問

(株) 安田 (当協会法人会員) の安田直弘社長のご令嬢 衣里 (えり) さんは、今春のミス日本並びにミス・アース日本の両コンテストでファイナリストに選ばれ、11月早々に開催された「2014ミス・ユニバース・ジャパン」の埼玉決勝大会で準グランプリ受賞という大変素晴らしい成績を残されました。この度、12月12日より12月19日までアルゼンチンを訪問し、アルゼンチンの関係者及び日系社会の皆様へ、これまでのご支援に対するお礼方々その報告をされます。またこの機会にチャスコムスまで足を延ばし、お父様の会社が扱われている魚 (ペヘレイ) を、今後アルゼンチンの特産品として、また、日本食として日本に普及するように、現地で活動される予定。

住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-6809-3681 FAX: 03-6809-3682

E-mail: nippon@argentina.jp

平成25年度 年会費納入のお願い

本年度 (平成25年4月1日～平成26年3月31日迄) の年会費のお支払いがまだ未納になっている方が一部お見受けします。年会費のお支払い手続きを済まして頂きますようお願い申し上げます。

個人正会員：1万円

個人賛助会員：5千円

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

日本アルゼンチン協会会報 第63号 2013年12月19日発行

発行人 木島 輝夫 (当協会副会長兼理事長)

編集長 加藤 勝巳 (当協会常務理事)

編集発行 一般社団法人 日本アルゼンチン協会
〒108-0073

東京都港区三田2-7-16 協和三田ビル3階

電話：03-6809-3681

FAX：03-6809-3682

E-mail：nippon@argentina.jp

URL：http://www.argentina.jp

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート